

# 病因と病態

オーガナイザー

病理学講座 教授 江 幡 正 悟

M-03-02-L

## 教 員 名

病理学講座

教 授 江 幡 正 悟

講 師 及 川 恒 輔

講 師 中 西 雅 子

## I 授業の目的

様々な疾患の成因 (Etiology) ・発生機序 (Pathogenesis) を学び、これに基づいて個体に現れる変化から病態生理 (機能の異常) と病変 (形態の異常) の関連を理解する。そして疾患を診断するための基礎的な観察方法を身につける。

## II 到達目標

1. 病理学を学ぶ意義について述べる。
2. 形態学的な変化を表現する病理学的専門用語を正しく用いる。
3. 各疾病の成り立ち・病因について、形態学的変化と関連づけて述べる。
4. 疾病の場としての人体各臓器の基本構造とその特徴を、疾患と関連付けて説明する。
5. 疾患の特色より症状、症候との関連を説明する。
6. 病気の診断に至る過程を組み立てる。
7. 病気の自然経過と治療による修飾を判別する。
8. 病理総論的、臓器横断的な疾患の分類法について説明する。
9. 疾患の病理学的特色とその成り立ちを説明する。
10. 臨床医学における病理診断の役割と位置付けを説明する。
11. 光学顕微鏡を使用して、病理組織標本を観察する。
12. 病理組織標本を病因と対比し、病変の成り立ちを説明する。
13. 病変の組織細胞学的特色について述べる。
14. 細胞の形態学的変化、特色とその機能の変化について述べる。
15. 代表的な分子病理学的方法について説明する。
16. 各論的疾患分類について説明する。
17. それぞれの臓器における代表的疾患を挙げる。
18. 病理学分野の学術図書より学術情報を得て、その知識を整理する。

## III 教育内容

講義日程表を参照

## IV 学習および教育方法

1. 学習：総論では、病変の成立機序や種類から疾患を質的に分類し、臓器横断的な病変の成り立ちの原則を学ぶ。各論では、総論の理解に即して、各臓器の具体的な病変を取り扱う。ただし病理学で扱う内容は広範であるため、講義や実習で解説しない内容は、「標準病理学」「カラーアトラス 病理組織の見方と鑑別診断」「病理コア画像」等、下記の推薦する参考書等を用いて自ら知識を深めることが必要である。なお、学習状況に応じて、講義・実習以外のレポート課題、小テスト、口頭試問などを課すことがある。

2. 講義：スライドや配布資料等を併用して行う。

3. 実習：各人がバーチャルスライドを用いて組織の観察やスケッチを行い、レポートを作成し提出する。

### V 評価の方法

1. 定期試験：V期の2回の定期試験において、通年で60%以上の得点率を必要とする。講義の出席が講義数の3分の2に満たない学生には、定期試験の受験資格を与えない（後述の再試験の受験資格等については個別に判断する）。定期試験では、講義の内容に加え、「標準病理学」「カラーアトラス 病理組織の見方と鑑別診断」「病理コア画像」等に記載されている中で、重要な内容を問う。試験形式は、記述問題あるいは選択問題の形式で行う。ただし、各試験において各人の得点は公表しない。

2. 再試験：定期試験に対する再試験は、再試験期間に実施される。再試験の出題範囲は別途、指定する。ただし、再試験の合否発表は行わない。

3. 追試験：やむを得ず定期試験を受験することができなかった場合は別途、該当の定期試験に対する追試験が実施される。ただし、評価に際して得点が補正される場合がある。

4. 実習：実習への取り組み、ならびにレポートを評価の対象とする。正当な理由なく各回の実習を欠席した場合、期日までにレポートを提出しない場合、レポートの内容が不適切な場合は不合格とすることがある。

5. 最終成績：定期試験の結果ならびに実習評価により判定する。

### VI 推薦する参考書等

- 標準病理学 第7版 医学書院
- Robbins & Cotran Pathologic Basis of Disease Tenth Edition Elsevier
- カラーアトラス 病理組織の見方と鑑別診断 第7版 医歯薬出版
- 病理コア画像 <https://pathology.or.jp/corepictures2010/index.html> 日本病理学会 教育委員会

### VII オフィスアワー

病理学 月曜日 17:00～18:00

【連絡方法】 ehata★wakayama-med.ac.jp（担当：江幡）

【実施場所】 研究棟7階 病理学講座

【備考】 メールでアポイントをとった上で来室のこと。

上記の時間以外にも個別対応する。

卒業時 コンピテン スマン	1 基盤的 資質				2 医師 としての 基本的 資質				3 コミュ ニケー ション能 力				4 医学的知識										5 医学の実践										6 医学的(科学 的)探究				7 社会 貢献										
	問題解決型能力	情報技術	語学能力	社会人としての一般教養	倫理観	チーム医療	自己啓発	人間関係の構築	他者への思いやり	情報交換	細胞の構造と機能	人体の構造と機能	人体の発達、成長、加齢、死	疾病の機序と病態	検査・画像診断技術	基本的診察知識	疾病の診断・治療方法	ITの活用	生物統計・疫学	行動科学・医療経済	法令、研究倫理	患者専断	基本的臨床技能	臨床推論・検査所見・画像診断	診療録作成	治療選択	救急医療	緩和・終末期・看取りの医療	介護と在宅医療	患者説明	医療安全・感染予防	予防医学	副作用・薬害	プレセンテーション技能	和歌山県医療	保健制度	基礎医学研究	臨床医学研究	社会医学研究	研究成果の公表	研究倫理の実践	地域貢献	福祉活動	ボランティア活動			
	D	D	D	F	F	F	D	F	F	D	C	C	C	B	F	F	F	F	F	F	F	F	F	D	F	F	F	F	F	E	F	F	F	F	F	F	F	C	E	F	F	E	F	F	F	F	F

## 講義日程表

No.	月日	曜日	時限	項目	担当教室	担当
1	R6.3.18	(月)	4	序論	病理学	江楮
2	R6.3.18	(月)	5	総論：細胞障害	病理学	及川
3	R6.3.22	(金)	1	総論：細胞障害	病理学	及川
4	R6.3.22	(金)	2	総論：炎症	病理学	中西
5	R6.3.22	(金)	3	総論：炎症	病理学	中西
6	R6.3.25	(月)	4	総論：炎症	病理学	中西
7	R6.3.25	(月)	5	総論：免疫	病理学	及川
8	R6.3.28	(木)	1	総論：免疫	病理学	及川
9	R6.3.28	(木)	2	総論：循環障害	病理学	江楮
10	R6.3.28	(木)	3	総論：循環障害	病理学	江楮
11	R6.3.29	(金)	2	総論：循環障害	病理学	江楮
12	R6.3.29	(金)	3	総論：循環障害	病理学	江楮
13	R6.4.1	(月)	4	総論：腫瘍	病理学	江楮
14	R6.4.1	(月)	5	総論：腫瘍	病理学	江楮
15	R6.4.4	(木)	2	総論：腫瘍	病理学	江楮
16	R6.4.4	(木)	3	総論：腫瘍	病理学	江楮
17	R6.4.8	(月)	4	総論：代謝障害	病理学	中西
18	R6.4.8	(月)	5	総論：代謝障害	病理学	中西
19	R6.4.11	(木)	2	総論：遺伝性疾患と先天異常	病理学	及川
20	R6.4.11	(木)	3	総論：遺伝性疾患と先天異常	病理学	及川
21	R6.4.12	(金)	2	総論：感染症	病理学	中西
22	R6.4.12	(金)	3	総論：感染症	病理学	中西
23	R6.4.15	(月)	4	病理学実習 ①	病理学	病理学講座教員
24	R6.4.15	(月)	5	病理学実習 ②	病理学	病理学講座教員

No.	月日	曜日	時限	項 目	担当教室	担当
25	R6.4.18	(木)	2	各論: 循環器	病理学	江楮
26	R6.4.18	(木)	3	各論: 循環器	病理学	江楮
27	R6.4.19	(金)	2	各論: 循環器	病理学	江楮
28	R6.4.19	(金)	3	各論: 消化管	病理学	中西
29	R6.4.22	(月)	4	各論: 消化管	病理学	中西
30	R6.4.22	(月)	5	各論: 消化管	病理学	中西
31	R6.4.25	(木)	2	各論: 血液・造血器・リンパ節	病理学	江楮
32	R6.4.25	(木)	3	各論: 血液・造血器・リンパ節	病理学	江楮
33	R6.4.26	(金)	2	各論: 血液・造血器・リンパ節	病理学	江楮
34	R6.4.26	(金)	3	病理学実習 ③	病理学	病理学講座教員
35	R6.5.7	(火)		試験	病理学	病理学講座教員
36	R6.5.9	(木)	2	各論: 肝・胆・膵	病理学	中西
37	R6.5.9	(木)	3	各論: 肝・胆・膵	病理学	中西
38	R6.5.10	(金)	2	各論: 肝・胆・膵	病理学	中西
39	R6.5.10	(金)	3	病理学実習 ④	病理学	病理学講座教員
40	R6.5.13	(月)	4	各論: 呼吸器	病理学	江楮
41	R6.5.13	(月)	5	各論: 呼吸器	病理学	江楮
42	R6.5.16	(木)	2	各論: 呼吸器	病理学	江楮
43	R6.5.16	(木)	3	各論: 脳・神経	病理学	中西
44	R6.5.17	(金)	2	各論: 脳・神経	病理学	中西
45	R6.5.17	(金)	3	各論: 脳・神経	病理学	中西
46	R6.5.20	(月)	4	各論: 腎臓	病理学	江楮
47	R6.5.20	(月)	5	各論: 腎臓	病理学	江楮
48	R6.5.23	(木)	2	各論: 腎臓	病理学	江楮
49	R6.5.23	(木)	3	各論: 泌尿器・男性生殖器	病理学	江楮

No.	月日	曜日	時限	項 目	担当教室	担当
50	R6.5.24	(金)	2	各論: 泌尿器・男性生殖器	病理学	江楮
51	R6.5.24	(金)	3	病理学実習 ⑤	病理学	病理学講座教員
52	R6.5.30	(木)	2	各論: 皮膚	病理学	江楮
53	R6.5.30	(木)	3	各論: 皮膚	病理学	江楮
54	R6.5.30	(木)	4	各論: 皮膚	病理学	江楮
55	R6.5.31	(金)	2	各論: 内分泌	病理学	江楮
56	R6.5.31	(金)	3	各論: 内分泌	病理学	江楮
57	R6.6.3	(月)	4	各論: 骨・軟部組織	病理学	江楮
58	R6.6.3	(月)	5	各論: 骨・軟部組織	病理学	江楮
59	R6.6.6	(木)	2	各論: 乳腺・女性生殖器	病理学	中西
60	R6.6.6	(木)	3	各論: 乳腺・女性生殖器	病理学	中西
61	R6.6.7	(金)	2	各論: 乳腺・女性生殖器	病理学	中西
62	R6.6.7	(金)	3	病理学実習 ⑥	病理学	病理学講座教員
63	R6.6.17	(月)		試験	病理学	病理学講座教員